

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	放水活動中に他者がガラスを破壊した際その破片により負傷した事例
3. 体験した事例の中心的要素	燃焼建物南側、ガラス戸製の出入り口付近のガラスの割れ目から放水活動を実施中、消防団員が 放水している水が効率よく入るため、私の右側からトビによりガラスを破壊したところ、その破片が 私の右手親指付け根付近にあたり負傷したもの
4. 体験した事例の原因・理由	ガラスを破壊する際、破片が及ばないところへ放水位置をずらすべきであった。 支給されているケプラー製手袋を着用せず、個人所有の皮手袋を着用していた。

【体験した事例の直接的原因について】

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

.....

1. 発生日時	平成 17 年 4 月 28 日	午前 3 時頃
2. 発生した当時の天候	雨	
3. 発生した活動現場	屋外：燃焼建物南側出入り口付近	
4. 体験した事例の種類	他人が、回答者を負傷させた。	
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう。	
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	切り・こすれ、	
7. 事例体験時の活動	火災、現場活動中期、 [耐火造建物、]	
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	部署・筒先配備、	
9. 同様の体験は、これまでにどの 程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。	

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[32]歳、 勤続年数[14]年、 現場経験年数[] 年、 階級[消防士長]、 同様の活動 []、 任務 []
○当事者 B	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
○当事者 C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1		火災を覚知	
経過 2		現場到着	
経過 3	Aが	放水中他者が破壊したガラスの破片により右手を切ったもの	
経過 4		放水活動後、負傷箇所を小隊長に報告	
経過 5			
経過 6			
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

.....

- 事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。資機材の不機能が適切だった。個人装備が不適切だった。

- ## ○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	はい
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	はい
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

・・・・・・・・・・・・・・・・

○注意力欠如、焦り等の対策について

当時は市内で大きな事故があり救助隊が現場に来る事ができないという事情があり、私自身消防隊で何とかしなければならないと思い、少しの焦りや気負いというものがあったと感じています。またそのようなことが原因の一端ではないかという思いもあります、自分自身では現場で一人では何もできないし、自分に確実にできると

○装備・資機材の対策について

装備・資機材については、確実な装備をしておれば事故・怪我を防げたのではと考えさせられるところであり、十分に私自身考え方を変えるようにしました。先日までは使いやすさのみを考え選定していましたが、やはり今回の事例を考え直すと、それだけではなく支給品を中心に丈夫さ、使い易さを考慮し選定しています、消防本

○活動環境の対策について

ここでの活動環境はどの点を指すのか良くわかりませんが、現場での環境を活動し易いものに変えるのは難しいと考えていますので、精神面で現場活動に影響がでて公務災害などにつながらないように、プライベート等から仕事に影響がでないように気をつけています。

○指揮・情報伝達の対策について

私達隊員からも訓練や現場活動等で危険因子を早めに小隊長及び中隊長に報告できるように心がけています。